

淀川左岸幹線水路 水生生物調査集計(2004 年～2013 年)

当会は、1999 年に大阪府水産課と府立淡水魚試験場（現、大阪府立環境農林水産総合研究所・生物多様性センター）が中心となり、枚方・寝屋川・守口の 3 市と共同で募集した市民ボランティアリーダー養成講座が母体となっています。3 年間の実習等を経て、2002 年度から市民ボランティアの自主組織として発足しました。年 4 回の調査を実施し記録に残っている 2004 年度からのデータをまとめました。

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
種類数	21	19	20	18	15	16	21	21	20	20
1 コウライモロコ	749	485	428	127	128	27	48	93	168	236
2 オイカワ	491	352	94	31	26	20	25	46	115	457
3 フナ類	40	43	71	25	22	14	55	20	6	36
4 カダヤシ	2	1	2	3	0	1	3	6	7	2
5 カマツカ	163	128	111	60	81	60	63	58	71	213
6 ニゴイ類	256	99	460	272	1269	653	457	63	321	552
7 シロヒレタビラ	11	9	12	1	7	0	0	0	0	0
8 タウナギ	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0
9 コイ	17	20	11	12	14	10	18	15	4	17
10 モツゴ	23	7	42	16	22	11	20	12	28	57
11 カムルチー	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
12 ナマズ	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2
13 ヌマチチブ	1	2	0	0	0	2	0	25	15	5
14 ドジョウ	0	0	0	0	0	0	2	4	0	1
15 タイリクバラタナゴ	4	1	6	1	0	1	1	0	12	0
16 タモロコ	6	3	5	7	5	1	4	0	2	1
17 ヒガイ類	4	0	1	2	0	0	2	6	2	1
18 ハス	10	18	7	21	2	7	0	0	2	27
19 カネヒラ	76	20	120	68	146	98	147	192	142	420
20 オオクチバス	4	5	7	11	6	5	6	7	2	9
21 ギギ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22 ヨシノボリ類	1	0	2	2	0	0	1	2	4	1
23 ブルーギル	2	3	0	1	1	0	7	4	3	3
24 ボラ	1	0	0	3	1	0	0	4	0	2
25 メダカ	0	2	6	0	1	1	0	2	0	0
26 アユ	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0
27 ウナギ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
28 カワアナゴ	0	0	0	0	0	0	1	3	2	3
29 マハゼ	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
30 ビワコオオナマズ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
31 ヨドゼゼラ	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
32 ドンコ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
33 ゴクラクハゼ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34 コクチバス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35 ワタカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計尾数	1863	1200	1388	663	1731	912	866	566	909	2045



▲ギギ と シロヒレタビラ

この表で「0」が続いているギギは、2003 年 7 月 23 日に採集した後、一度も再捕獲できていません。当会のシンボルフィッシュであるシロヒレタビラは、2008 年の記録を最後に再捕獲できていません。当時は、ドブガイやイシガイなどの二枚貝が足の踏み場もないほどたくさん生息していました。当時は川底の砂の量が豊富だったように思います。現在、粘土底のエリアが増えてきたので、淀川からの砂の流入がなくなったように感じます。このような水辺環境の変化も長年調査をしている我々だから感じるものだと思います。

日本国内でも同一地点で、これだけ長期間継続して調査データを残している民間団体は数少ないと思います。